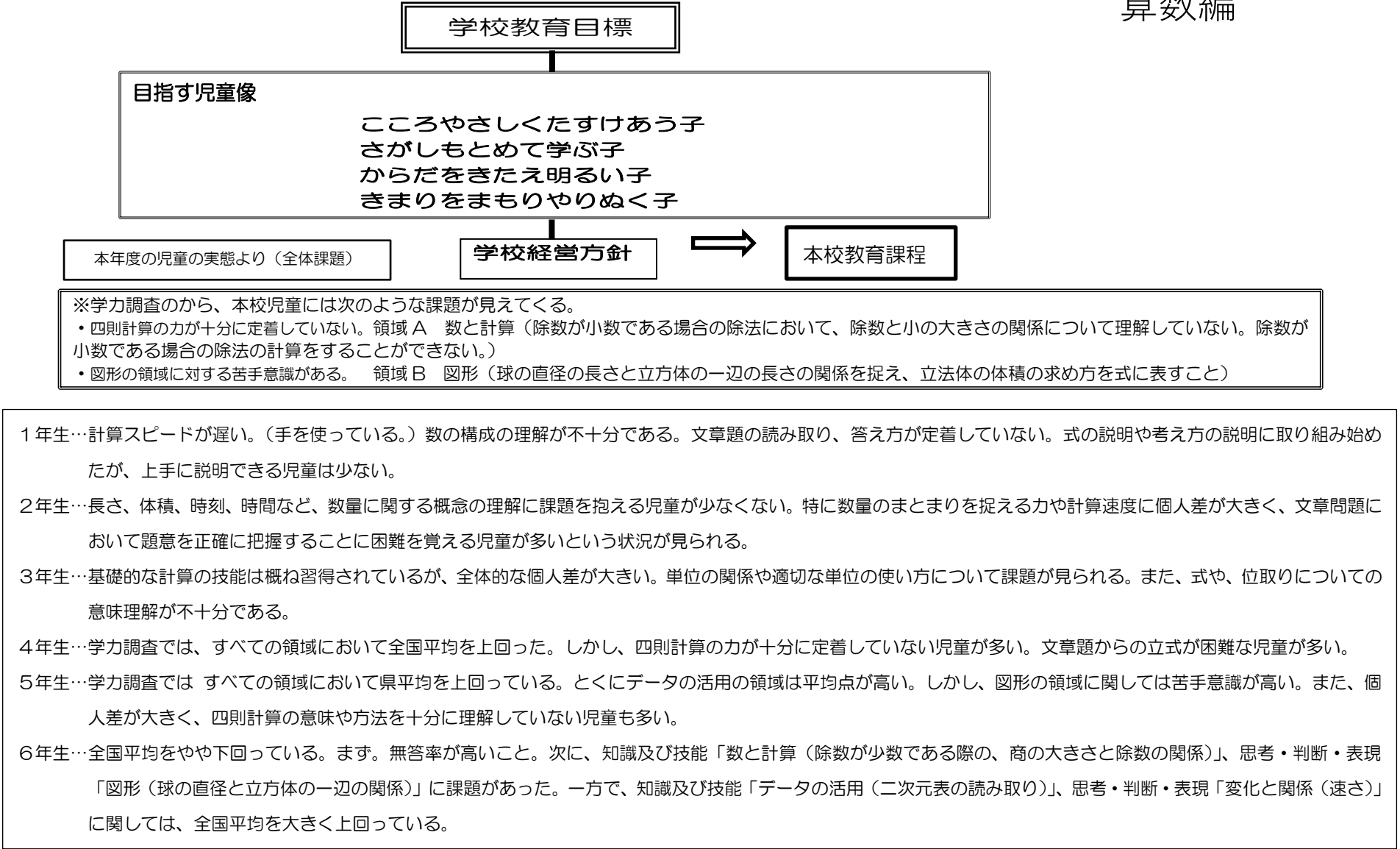




*9月からの取組		成果の検証
○キュービナを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ○クロームブックを活用し、個別最適化な学びと協働的な学びの往還を意識した授業づくりを行う。 ○長崎県授業改善メソッド及びあじさいスタンダードを意識した授業づくりを徹底する。		
1年	・計算力を高めるために定期的にスキルアップの時間をとる（休み時間・授業中）。 ・「キュービナ」「アシストシート」を使って活用力を身に付けさせる（宿題→解説）。 ・文章題のキーワードに着目させ、ラインを引きながら立式させる。 ・式の意味を考えさせるため、子供が対話する場面を多く設ける。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
2年	・数量の関係を絵や図に表す活動や、図と式を関連付けて説明しあう学習活動を設ける。 ・「キュービナ」やプリント等を活用し、基本的な計算の反復練習を行い、基礎学力の定着を図る。個に応じた課題に取り組ませる。 ・問題文に出てくるキーワードに線を引いたり、赤青鉛筆で色付けしたりする活動を通して、何が問われているのか意識させて立式させる。 ・具体的操作活動の場面を増やす。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
3年	・時間、長さ、重さなど視覚的には見えづらい量を、実際に測ったり、道具を使ったりするなど体験活動を行い、量感を伴って理解させていく。 ・文章（問題）から立式させ、説明ができるように授業を仕組む。（口頭またはノート） ・授業終末には、練習問題に取り組ませて定着を図る。 ・意欲、興味をもって取り組むことができるように、「キュービナ」等も活用していく。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
4年	・問題場面を具体的に想像できるように、数量の関係を絵や図に表す活動を行う。また、図と式を関連付けて立式の根拠や解決の仕方を説明しあう対話活動の時間を設定し、多様な考え方を知り、よりよい解法に気づけるようにする。 ・授業では、積極的に ICT を活用し、複線型や自由進度学習等を通して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	・課題プリントや単 元末テストでの検 証を行う。 ・授業後の振り返り で、学び方の達成度 を図る。
5年	・授業の中で、数量の関係を絵や図に表しながら、説明を書く時間を確保し、その根拠を友達と話し合う活動を取り入れていく。 ・「キュービナ」を活用し、下学年の復習にも取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 ・具体物の操作活動を通して、図形の性質についての理解を深めるようにする。	・課題プリントや単 元末テストでの検 証を行う。 ・授業後の振り返り で、学び方の達成 度を図る。
6年	・数と計算（除数が少数である際の、商の大きさと除数の関係）に関する事項を高めるために、Qubena で、対策ワークブックを作成し実施することで、課題を解決することができるようにする。 ・図形（球の直径と立方体の一辺の関係）に関する事項を高めるために、6年生の図形の領域の学習で、日常生活とつなげる体験活動等に取り組むことで、活用能力が向上することができるようにする。	・検証テストを実施 し、その得点を分析 することで、検証す ることができるよう にする。